

「宮城県楽器BANK」中間報告



宮城県吹奏楽連盟 「宮城県楽器BANK」担当 遠藤 昇

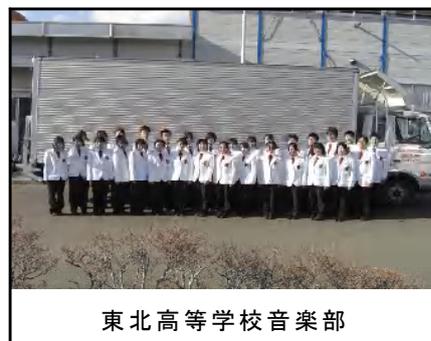
東日本大震災の当日3月11日午後2時46分、宮城県内の中学校は卒業式前日の準備若しくは式典当日であった。また、高校は試験休み中で多くの団体は練習中であり、小学校は授業中であつたと思われる。そして、午後3時過ぎには多くの楽器が地震により落下や下敷きとなり破損し、沿岸部では津波とともに海に沈んだ。360を越える団体をもつ宮城県吹奏楽連盟もネットワークの寸断により機能は停止し各役員も生きのびることで精一杯であつた。

発足

震災から1週間程度たってライフラインの一部復旧とともに少しずつではあるが全体像が明らかになり、全国の音楽家や各団体から安否確認のメールや電話が入るようになった。そして、3月の末に事務局に1通のメールが届いた。「震災で楽器を失った子供たちに楽器を送らせてください。」このことを受けて4月2日の夜、会長以下数人で緊急の役員会を開き現状の把握と今後のことについて話し合われた。この時、全国からの義援金や支援など多くの声を聞くことになり連盟として被災団体への支援について次のように決まった。

- ・義援金については、事務局や銀行が機能していないので全日本吹奏楽連盟に委託する。
- ・楽器等の物資支援については、「宮城県楽器BANK」を発足し東北高等学校音楽部がその任に当たる。(後に決まるが、岩手県・福島県についても支援する。)

東北高等学校音楽部の受け入れ体制については、学校施設の被害が最小であること、部員の被災状況が軽微である。また、学校側の協力で集荷施設と作業施設の提供と音楽部の楽器輸送トラックと大型バスを利用できる事が上げられる。まだ県内が混乱している中、このような条件と副理事長の所属団体であり独立した運用が可能であることから4月4日から即時準備を開始した。初めての取り組みであり先の見えない状況であつたが希望とともに手探りで進めることになった。



被災団体の状況

4月上旬に各被災団体への被災状況報告を13地区の理事長へお願いしたが連絡が着く状況ではなく困難を極めた。特に、学校が危険指定で楽器の確認ができない団体や津波で学校そのものがなく避難しており連絡が付かない、顧問が入院等で何もわからないなど被災から半年たった9月でも全容がつかめない状況であつた。そして、10月4日に再度、被害報告をよびかけ11月の末に人的被害の報告とともに全容が明らかになった。その結果、現在は3年生の引退で何とか楽器は充足しているが新年度には新入部員の楽器不足が懸念されるとの報告であつた。また、学校にも家庭にも活動予算がなく活動の縮小や備品の購入・管理ができない状況である。

活動状況

4月5日にホームページにて「宮城県楽器BANK」の設置を全国へ発信した。翌日には、各地で活躍中の音楽家や音楽団体の方々から問い合わせや応援の連絡があり4月7日に最初の楽器が東京から到着した。その後、個人の方々から毎日のように楽器が届き、多くの団体が全国各地でチャリティーコンサートやイベントを開催し集まった楽器などを郵送やトラックで持参した。また、海外で活動中の日本人音楽家からの問い合わせもあった。その他、被災団体の演奏派遣のコーディネートも行っており今年の3月23日にはNPO法人の主催で東京の浜離宮朝日ホールへ宮城・福島の3団体とともに楽器を寄贈していただいた団体と演奏会を開催してきた。



- 4月 ・SeRV ウィンドオーケストラより50台を超える楽器が到着
- 5月 ・国境なき楽団の庄野真代さんとカーニバルカンパニーの橋爪御夫妻が全国でのコンサートで集めた約100台の楽器を持参
・野中貿易より大量のリード・マレット類・ミュートなどの消耗品が大量に到着
- 6月 ・近畿大学吹奏楽部がイベントで集めた約110台の楽器が到着
・株式会社オリエンタルランド(ディズニーランド)より約50台のマーチング打楽器が到着
・陸上自衛隊中央音楽隊有志の方々が個人の楽器等を持参
- 7月 ・fm横浜がリスナーに呼びかけ集めた楽器約400台を日通の協力で持参、生中継でその状況を放送
- 8月 ・浜松の楽器はともだちプロジェクトの皆さんが集めた楽器を2回に分けて約70台が到着
・洗足学園音楽大学復興支援推進チーム 岩本伸一氏の協力でヤン・バン・デル・ロースト氏の指揮で被災地の生徒を集め追悼演奏会を開催
- 10月 ・愛知県吹奏楽連盟より多くの支援物資を持参
・関音楽事務所が劇団公演の収益でシロフォン8台を持参
・石川県吹奏楽連盟で県内で集めた楽器を持参
- 12月 ・立正佼成会仙台教会より50台を越えるマーチングパーカッションが到着
- 24/1月 ・立正佼成会旭川教会より50台を越えるマーチングパーカッションが到着
- 3月 ・株式会社オリエンタルランド(ディズニーランド)より約40台の大型打楽器を持参

その他、各地の音楽団体や個人の方々からも楽器のほかにも多くの消耗品を送っていただいた。しかし、その中には修理不能の楽器が1割を占めこれらの楽器の今後も考えなくてはならない状況である。楽器の集荷とともに仕分け作業が最大の難関であった。こん包を解き中身のチェックと記録を行い楽器の状況で5段階に仕分けしすぐ使える状態で出荷できるように準備することであった。仕分け作業には東北高校音楽部が行い、ヤマハ楽器の協力を受け浜松より技術スタッフをボランティアで派遣していただき数回にわたって楽器の選別と調整をした。また、楽器修理は全日本吹奏楽連盟からの義援金で地元の楽器店の協力を得て作業を行った。5月末には400台近い台数の出荷準備が整い沿岸部の小中高の団体中心に支援を決め、現地との調整を図り、特に被災団体の多い気仙沼(本吉地区)から矢本(石巻地区)の沿岸地域を中心に下記の日程で支援活動を行った。また、内陸部の団体については、活動上必要としている楽器や消耗品を随時出荷した。特に演奏活動の再開が子供たちの心のケアにもつながると思い7月末に行われる吹奏楽コンクールへの参加を推進するとともに原動力となるよう寄贈会では参加者との練習会や合奏も行った。また、5月の県総会に全日本吹奏楽連盟松平理事長が現地視察に訪れ激励をいただき、10月の本吉地区寄贈会には愛知県吹奏楽連盟渡辺理事長が視察に訪れ他県連盟として初めて現地での楽器BANK支援活動に参加した。



- 6月12日 石巻地区 22 団体に楽器 100 台を寄贈
- 6月26日 本吉地区 24 団体に楽器 99 台を寄贈
- 10月22日 本吉地区 21 団体に楽器 127 台を寄贈

1月31日までに1313台の楽器と数多くの消耗品やアクセサリ用品が到着しており、楽器を必要としている宮城県・岩手県併せて69団体に674台の楽器を寄贈した。また、308台を保有しており現在修理中である。

今後の活動

新年度に向けて、在庫楽器の整備と不足楽器・消耗品の更なる呼びかけを行い、新入部員を対象に5月26日に支援を行う準備を進めている。また、全国からの支援に対しての御礼を考案中である。そして、皆様の協力を得て取り組みのすべてを記録として残していきたいと考えている。

「宮城県楽器BANK」記録写真



津波被害の楽器



津波被害の楽器



津波被害の楽器



4/10 石巻視察風景



6/12 石巻地区にて



6/26 本吉地区にて



8/14 追悼演奏会



被災地での合同演奏



楽器にはメッセージが